

ユリの草丈及び花輪数に及ぼす土着菌発酵肥料の効果

下敷領 耕 一

(農学部附属農場)

はじめに

農学部附属農場学内農場では、種々品種のユリを導入して栽培し、2年が経過した。その結果、草丈や花輪数は購入者がユリを選定する上で重要な要素になることが認められた。

そこで、ユリの草丈と輪数を向上させる上で、土着菌発酵肥料が有効か否かを検討した。

材料と方法

供試品種：オリエンタルユリ（シベリア）オランダ産

土壤消毒：ベッド土を蒸気消毒

土壤改良：155 g / 1 m²

肥料：試験区の肥料資材配合内容及び土着菌配合と発酵

ナタネ油粕41%，魚粕33%，骨粉17%，塩加カリ 9% + 総量の20%の土着菌で発酵させた肥料を施用。

対照区の肥料配合内容

ナタネ油粕41%，魚粕33%，骨粉17%，塩加カリ 9%

(成分：N1.5kg/a P1.75kg/a K1.75kg/a)

球根の定植時期：ベッド施肥後 5 日目（平成13年 2 月 6 日）および18日目（平成13年 2 月19日）

定植方法：株間20cm，3条千鳥植え

調査項目：草丈および花輪数（平成13年 5 月21日）各60株

結果と考察

草丈は土着菌発酵肥料区が施用 5 日目および18日目定植区ともそれぞれ22.4cmおよび10.3cm高く伸び、両定植時期とも区間で0.1%水準の有意な差が認められた。

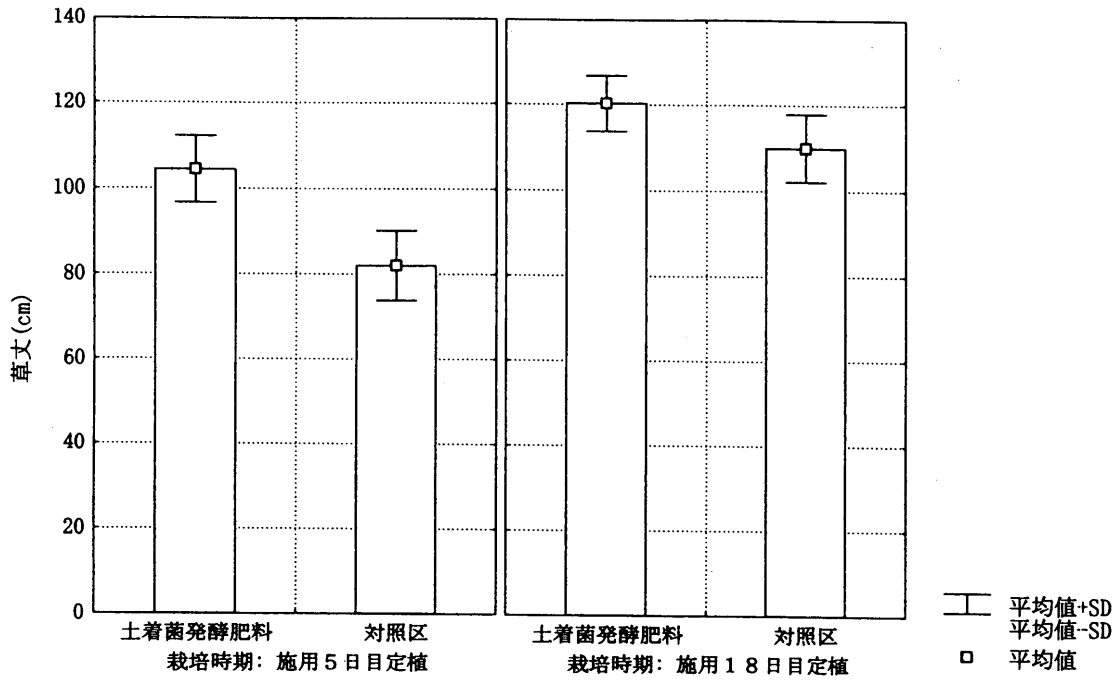
花輪数は、土着菌発酵肥料区が施用 5 日目および18日目定植区でそれぞれ2.3輪および1.5輪多く着花し、両定植時期とも区間で0.1%水準の有意な差が認められた。

以上のことから、土着菌発酵肥料はユリの草丈および着花数を確実に高める効果が認められた。しかし、発酵肥料の施用から定植までの期間がその後の生育と着輪数に大きく影響しており、このことはハウスの回転数を高めるうえで大きな課題である。

従って、今後土着菌発酵肥料の完熟化技術を更に検討するとともに、着花数増に効果的な発酵肥料調整と施肥技術についても検討する必要があると考える。

データ整理にお手伝い頂いた、農林工学研究生の田中氏に深謝致します。

1 図 ユリの草丈に及ぼす土着菌発酵肥料と定植時期の影響



2 図 ユリの花輪数に及ぼす土着菌発酵肥料と定植時期の効果

